【参考】学校規模によるメリット・デメリットの例

※文部科学省ウェブサイトより

	小規模化	大規模化	小規模化	大規模化
	メリット	デメリット	デメリット	メリット
学習面	・児童・生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。	・全教職員による各児童生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい。	・集団の中で、多様な考え方に 触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。 ・1学年1学級の場合、ともに努 力してよりよい集団を目指す、学級間の相互啓発がなされにくい。	・集団の中で、多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、一人ひとりの資質や能力をさらに伸ばしやすい。
	・学校行事や部活動等において、児童生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい。	・学校行事や部活動等において、児童生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しにくい。	・運動会などの学校行事や音楽 活動等の集団教育活動に制約が生じやすい。 ・中学校の各教科の免許を持つ 教員を配置しにくい。 ・児童生徒数、教職員数が少ないため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員によ る指導など、多様な学習・指導 形態をとりにくい。	・運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすい。 ・中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しやすい。 ・児童生徒数、教員数がある程度多いため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態をとりやすい。
			・部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい。	・様々な種類の部活動等の設置が可能となり、選択の幅が広がりやすい。
生活面	・児童生徒相互の人間関係が深まりやすい。 ・異学年間の縦の交流が生まれやすい。	・学年内・異学年間の交流が不十分になりやすい。	・クラス替えが困難なことなどから、人間関係や相互の評価等が固 定化しやすい。 ・切磋琢磨する機会等が少なくなりやすい。 ・集団内の男女比に極端な偏りが生じやすくなる可能性がある。	・クラス替えがしやすいことなどか ら、豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい。 ・切磋琢磨すること等を通じて、社会性や協調性、たくましさ等を育みやすい。
	・児童生徒一人ひとりに目がとど きやすく、きめ細かな指導が行いやすい。	・全教職員による各児童生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい。	・組織的な体制が組みにくく、指導方法等に制約が生じやすい。	・学校全体での組織的な指導体制を組みやすい。
学校運営面・財政面	・全教職員間の意思疎通が図り やすく、相互の連携が密になりやすい。 ・学校が一体となって活動しやすい。	・教職員相互の連絡調整が図りづらい。	・教職員数が少ないため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた配置を行いにくい。 ・学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いにくい。 ・一人に複数の校務分掌が集中しやすい。 ・教員の出張、研修等の調整が 難しくなりやすい。	・教員数がある程度多いため、経験、教科、特性などの面でバラン スのとれた教職員配置を行いやすい。 ・学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いやすい。 ・校務分掌を組織的に行いやすい。 ・出張、研修等に参加しやすい。
	・施設・設備の利用時間等の調整が行いやすい。	・特別教室や体育館等の施設・設備の利用の面から、学校活動に一定の制約が生じる場合がある。	・子ども一人あたりにかかる経費が大きくなりやすい。	・子ども一人あたりにかかる経費が小さくなりやすい。
その他	・保護者や地域社会との連携が図りやすい。	・保護者や地域社会との連携が難しくなりやすい。	・PTA 活動等における保護者一人当たりの負担が大きくなりやすい。	・PTA 活動等において、役割分担により、保護者の負担を分散しやすい。

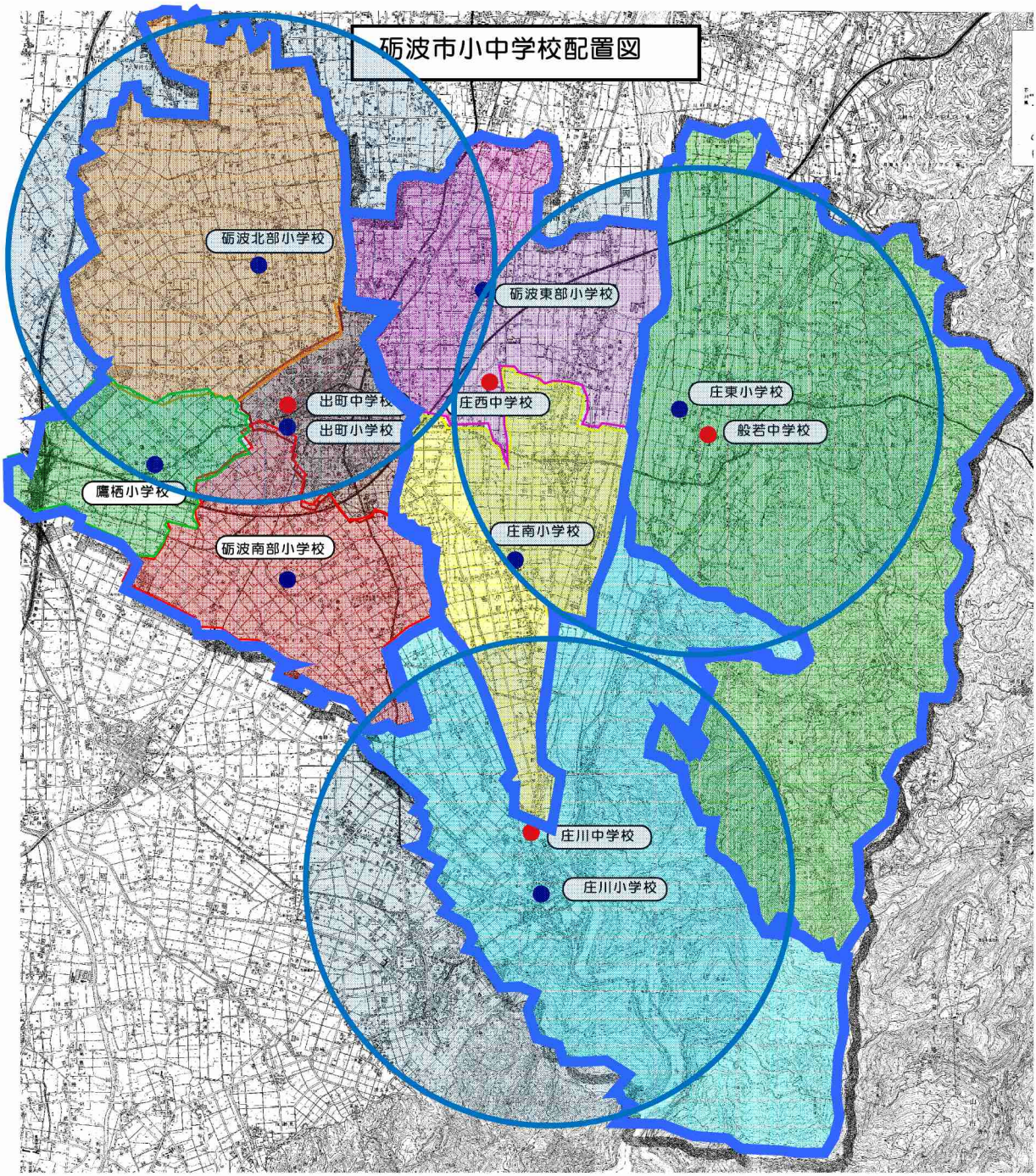
7　小中学校の配置について

①　国の定める通学距離等の目安について

学校	通学距離	通学時間
小学校	原則４㎞以内	適切な通学手段を確保することでおおむね１時間以内
中学校	原則６㎞以内	

※「公立小・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」ほか

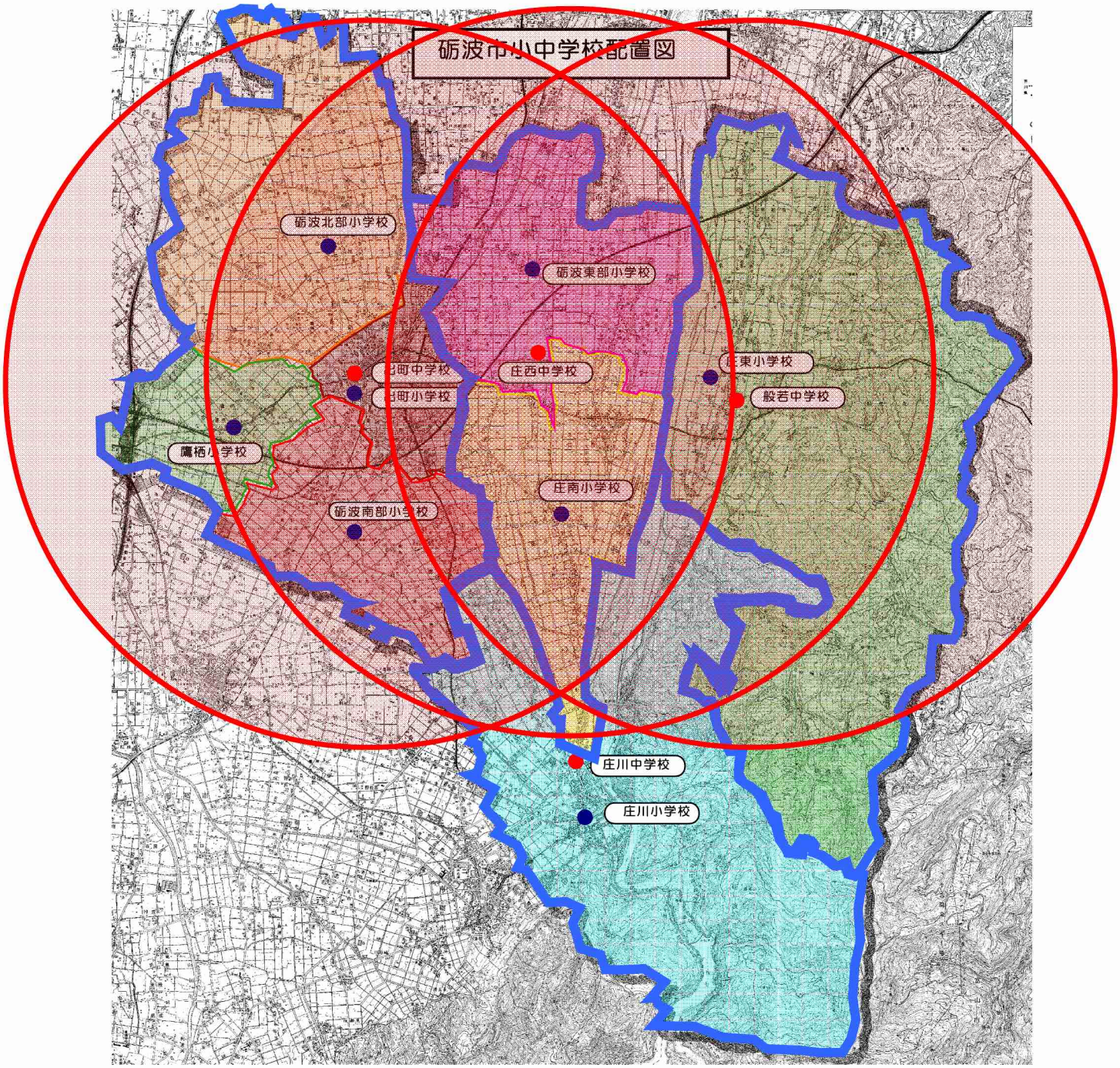
②　市内の小学校の通学状況について



※図の円は、通学距離（道のり）がおおむね４㎞を超える小学校について記載

・　おおむね４㎞以内の場合は、徒歩通学　⇒　おおむね１時間以内
・　スクールバスの場合（庄東小、庄川小）　⇒　おおむね４０分以内
・　市営バスの場合（砺波北部小、庄東小、庄南小）　⇒　おおむね５０分以内

③　市内の中学校の通学状況について



※図の円は、通学距離（道のり）がおおむね６㎞を超える中学校について記載

・　おおむね６㎞以内の場合は、徒歩又は自転車通学　⇒　おおむね４０分以内
・　市営バスの場合（出町中学校、般若中学校）　⇒　おおむね５０分以内

8　課題について

本市においての課題は、次のことが考えられる。

- 今後も少子化・学校の小規模化の進展が見込まれる中、少子化や学校の小規模化に伴う教育上の課題を検証し、本市における適正な学校規模や配置を検討していく必要があること。
- 国の示す学校の標準規模を下回る学校も存在しており、教育環境への影響が懸念されること。
- 国からも地域の実情に応じて、教育的な視点から少子化に対応した活力ある学校づくりのための方策を検討・実施していくことが求められていること。
- 中学校の小規模化により、全ての教科の教員が配置されない現状があること。
- 生徒数が減少する中学校の部活動において、種類が限られてきていること。